

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisunshin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話03)3377-4649

FAX(03)32299-5367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円

6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

「ワーキングプアー」(労働貧民)

滝野 忠……………2

◇資料 琉球新報 社説全文(二〇一三年十二月二十八日)

知事埋め立て承認 即刻辞職し信を問え 民意に背く歴史的汚点

……………3

死亡 消費 税 ……………

……………5

◇資料と解説 ◇ハンギョレ新聞日本語版社説(二〇一三・一二・二七)

「やはり安倍総理は北東アジア不安の禍根だ」

増田 都子……………6

「改革開放」は資本主義への道

編集部……………7

— 中国への基本視点(二) —

地域から地方から中央を包囲する力をつくる

松枝 佳宏……………10

どこへ行くのか日本 これが良いのか日本

鳩川 静……………10

安倍政権の暴走に歯止めをかける

坂本 茂雄……………10

情勢 四つの特徴 ……………

……………11

— 年のはじめに考える —

読者からのおたより……………

……………14

旬刊 社会通信

NO. 1160

二〇一四年一月二五日号

二〇一四年一月二五日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

「ワーキングプア」 (労働貧民)

「ワーキングプア」(労働貧民)なる言葉がはやってきている。「ワーキングプア」(労働貧民)は、どのような歴史の流れの中でとらえなければならぬのだろうか。昨年末、派遣労働は資本蓄積過程でどんな位置を与えられているのだろうかを問題意識に、『資本論第一巻』、第二三章の資本主義的蓄積の一般的法則に目を通した。

「労働貧民」、新しい言葉じゃなかった。資本主義生成期にすでに使われていた！第三章、第六節資本の蓄積過程の末尾に、マルクスは「労働貧民」をこう記している。

「資本主義的生産様式の『永遠の自然法則』を解き放ち、労働者と労働諸条件との分離過程を完成し、一方の極では社会の生産手段と生活手段を資本に転化し、反対の極では、民衆を賃金労働者に、自由な『労働貧民』に、この近代史の作品に、転化することは、かくも多きことだ。もし貨幣が、オージエの言うように、『頬に自然の血痕をつけてこの世に生まれる』ものならば、資本は頭から爪先まで、毛穴という毛穴から、血と脂とを滴らしつつ生まれるのである」(岩波書店版、九四八頁)

この「労働貧民」について、マルクスは注二四八で、くわしく言及する。

『労働貧民』なる表現は、賃金労働者階級が、注目に値するものとなる瞬間から、イギリスの法律の中に見出される。『労働貧民』は、一方では『怠惰貧民』、乞食等に対立し、他方では、まだ羽をむしられた鶏(にわとり)ではなく、自分の労働手段の所有者である労働者に対立する。この『労働貧民』なる表現は、法律から経済学に移って、：アダム・スミスやイーデンにも及んだ。」(同、九四八―九頁)。

マルクスは「労働貧民」を賃金労働者、労働者階級として使っている。「社会主義は死んだ、したがってマルクスも死んだ」、「資本主義は永遠だ」との風潮が一般的とされる現代にあつて、社会主義やマルクスはむしろ労働運動をも知らない若者たちから自然発生的に「ワーキングプア」、「ブラック企業」なる言葉が生まれてきたことはたいへん興味深い。それを象徴するのが、『週刊新社会』(一月一日号)にある、雨宮処凜さん(作家)、長南博邦さん(新社会党書記長)の対談だ。

「雨宮 私たちが(秘密保護法で)危惧していることは、漠然とヤバイという空気が醸成されて自己規制していくことです。

長南 考えてみれば職場は何十年も前からそんな状況です。言いたいことを言えば査定され、処分されて萎縮していくんです。労働組合も頭から腐ってききました。

雨宮 いつ頃？

長南 高度成長へ離陸する時に民間で始まり、官公労に飛び火して連合が総評に取って代わりました。今は闘う組合が少数で、若い人はよけい大変です。

雨宮 今の三〇、四〇代は組合が強い良き時代を知らない。労働基準法に守

られることも知らずに就職して、これじゃブラック企業が繁殖するはずです。

雨宮 あれ（派遣村）は衝撃的でした。日本で貧困が再発見された日です。自己責任を押し付けるのはおかしいという声が沸き上がり、政権交代の原動力にもなりました。でもブームが去り、二〇一一年の「3・11」で飛んでしまいました。被災地のことを考える、首になつたくらいでガタガタ言うなど。その一方でデモなどで声をあげて行動することが普通になった始まりの年でした。

3・ニデビューの人が結構います。意識の変化を感じますね。

長南 以前は組合が政治教育をやったものです。

雨宮 どういう？

長南 政治や経済、労働者の権利、物の見方・考え方とかです。

雨宮 すごいですね。組合の教育によっていじめの構造や敵が見えてくる。それが見えないから、在日が悪いとかアブナイ話になつてしまう。」

今の若者たちは、階級的労働運動と労使協調労働運動との激しい対立・抗争はむろんかつての「労働貧民」がそうであつたように、資本主義的生産様式の労働力の売り買いに潜む搾取を知らない。しかし、資本主義社会にあつては生産力向上は、かならず労働者階級への搾取の増大、それにもなう格差拡大が若者たちに、搾取の結果について考え行動し始めざるをえなくしている。いや、考えるきっかけを与えられたというべきか。米国発の「1%対99%」もそれである。資本主義は生活の不安を増大させる。こうして、搾取という根本問題に突きあたる。

（滝野 忠）

◇資料 琉球新報 社説全文（二〇一三年十二月二八日）
知事埋め立て承認 即刻辞職し信を問え 民意に背く歴史的汚点

沖縄県の仲井真弘多知事が米軍普天間飛行場の移設をめぐり、政府の名護市辺野古の埋め立て申請を承認したこと、二八日付の地元紙・琉球新報は「即刻辞職し信を問え 民意に背く歴史的汚点」との社説を掲載。沖縄の読者は「安倍内閣の沖縄との関係は一八七九年の琉球処分そのままです。また、沖縄県知事の姿勢も問われます」と厳しく批判する。社説の全文は次の通り。（編集部）

仲井真弘多知事が、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に向けた政府の埋め立て申請を承認した。「県外移設」公約の事実上の撤回だ。大多数の県民の意思に反する歴史的汚点といふべき政治決断であり、断じて容認できない。

知事は二〇一〇年知事選で掲げた「県外移設」公約の撤回ではないかとの記者団の質問に対し「公約を変えたつもりはない」と述べた。しかし、どう考えても知事の説明は脆弁だ。政府も当然、知事判断を辺野古移設へのゴーサインと受け止めるだろう。知事は責任を自覚して即刻辞職し、選挙で県民に信を問い直すべきだ。

見苦しい猿芝居

知事の声明は法律の適合性についての根拠が曖昧なほか、安倍政権の基地負担軽減

策を恣意的に評価しており、詐欺的だと断じざるを得ない。

安倍政権の沖縄に対する思いを「かつてのどの内閣にも増して強い」と評価した。政権与党が自民党の県関係国会議員や県連に圧力をかけ「県外移設」公約を強引に撤回させたことなどまるで忘却したかのようだ。知事の政権評価は、県民の共感に到底得られまい。

首相が示した基地負担軽減策で、普天間飛行場の五年以内の運用停止は「認識を共有」との口約束であり、日米地位協定は抜本改定ではなく新たな特別協定締結に向けた「交渉開始」と述べただけだ。

米海兵隊輸送機MV-22 オスプレイについても、訓練の移転にすぎず沖縄への二十四機の常駐配備に何ら変化はない。要するに負担軽減の核心部分は、実質「ゼロ回答」なのだ。辺野古移設反対の県民意思を顧みない知事判断は、県民の尊厳を著しく傷つけるものだ。

日米両国が喧伝する自由・民主主義・基本的人権の尊重という普遍的価値の沖縄への適用を、知事自ら取り下げるかのような判断は、屈辱的だ。日米の二重基準の欺瞞性を指摘し「沖縄にも民主主義を適用せよ」と言うのが筋だ。

知事の埋め立て承認判断は、基地問題と振興策を取引したこと一つを取っても、国内外にメディアを通じて「沖縄は心をカネで売り渡す」との誤ったメッセージを発信したに等しく、極めて罪深い。

辺野古移設で取引するのは筋違いだ。振興策も基地負担軽減も本来、国の当然の責務だ。その過大評価は県民からすれば見苦しい「猿芝居」を見せられるようなものだ。

再び「捨て石」に

知事は二十五日の安倍首相との会談の際、「基地問題は日本全体の安全保障に役立つ、寄与しているという気持ちを持っている。われわれは今（政権の）応援団。ありとうございませう」とも述べた。

強烈な違和感を禁じ得ない。沖縄戦でおびただしい数の犠牲者を出した沖縄の知事が悲惨な歴史を忘却し、軍事偏重の安全保障政策に無批判なまま、沖縄の軍事要塞化を是認したに等しい妄言である。今を生きる県民だけでなく、無念の死を遂げた戦没者、沖縄の次世代をも冒瀆（ぼうとく）する歴史的犯罪と言えよう。

知事の言う「応援団」の意味が、軍事を突出させる安倍政権の「積極的平和主義」へ同調し「軍事の要石」の役割を担う意思表示であるならば看過できない。沖縄戦で本土防衛の「捨て石」にされた県民が、再び「捨て石」になる道を知事が容認することは許されない。

知事の使命は、県民の生命、財産、生活環境を全力で守り抜くことであるはずだ。知事は県民を足蹴にし、県民分断を狙う日米の植民地的政策のお先棒を担いではならない。

県民大会実行委員会や県議会、県下四十一市町村の首長、議長ら県内代表が「建白書」として首相に突きつけたオール沖縄の意思は、普天間飛行場の閉鎖・撤去と県外移設推進、オスプレイ配備の中止だ。県民を裏切った知事の辞職は免れない。

死亡消費税

ネットを見ていた息子が呟く
死んでも 消費税が追いかけてくるよ
冗談じゃない
年金は減る 健保も介護料も上がった
どこをたたいて搾り取るの

死亡消費税だよ
金持ちは相続税を払う
貧乏人からは死亡消費税で搾り取るの

同居していた父が亡くなり
貯金もない 家だけが残った
その家の評価額が三千万円
そこに掛る税金が一五〇万円
息子は 払えない 家を売るしかない

死人からも 税金を搾り取る
それが 死亡消費税だよ

いえいえ お年寄りも お金を貯めないで
消費して下さい ということ
霞が関は ニンマリ笑う

楽しみにしていた 旅もやめた
観たかった 映画も断念したわ
知人の葬式にもいられない
孫への小使いも減らした

経済成長を支えた 年寄りを
死んでまで 搾る この政権

もう限界だ 一揆でも起こそう
年寄りにだって 一票あるんだ

(梅津 弘子)

◇資料と解説◇ ハンギョレ新聞日本語版社説(二〇一三・一二・二七)
やはり安倍総理は北東アジア不安の「禍根」だ

去年十二月二三日の天皇記者会見(の一部)と韓国ハンギョレ新聞日本語版の社説「やはり安倍総理は北東アジア不安の「禍根」だ」を紹介します。

私は明仁天皇の「十二月八日から、中国のほか新たに米国、英国、オランダとの戦争が始まりました。」という「お言葉」に、かなり違和感を覚えていました。

そりゃ、庶民にとっては「戦争が始まりました。」以外の何者でもなかったでしょう。でも、明仁天皇の父「昭和天皇が戦争を始めさせました。」という歴史事実について、明仁天皇が無知であるわけではないと思うのです。なぜ、そこから「始ま」らないのでしょうか？

そして「この戦争による日本人の犠牲者は約三一〇万人と言われています。前途に様々な夢を持って生きていた多くの人々が、若くして命を失ったことを思うと、本当に痛ましい限りです。」って？

戦争は自然現象ではないのです。地震などの自然現象によって「若くして命を失った」ではありません。「三二〇万人の犠牲者」は明仁天皇の父である昭和天皇の「戦争をせよ」(正確には「億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ」という命令によって戦争するしかなかったのです。その結果「前途に様々な夢を持って生きていた多くの人々が、若くして命を失」わされた、のが歴史事実でした。

ハンギョレ社説は言います。「安倍総理は参拝後、報道陣に『日本のために貴重な生命を犠牲にした英霊に尊崇を表示した。中国や韓国の人々の気持ちを傷つける気持ちは毛頭ない』と話した。日本のために生命を犠牲にした人々が、我々にとっては生命を奪って苦痛を与えた侵略者という事実を努めて無視する「我田引水」式の歴史認識の極限状態だ。」

21世紀になっても隣国の人たちの意見に耳を傾けることがなければ、日本は「北東アジア不安の「禍根」」になるだけでなく世界の「禍根」になるのではないでしょうか。(増田 都子)

安倍晋三日本総理が二六日(二〇一三年十二月)、日帝侵略戦争の象徴である靖国神社を電撃的に参拝した。日本の現職総理がヤスクニを参拝したのは二〇〇六年小泉純一郎総理以後七年ぶりだ。それほど珍しい「事件」である。過去の植民地支配と侵略戦争を美化する行為として、我が国と中国が強く反発したために、小泉総理以後の歴代総理は参拝しなかった。このような点で今回の安倍総理の参拝は、隣国との間に壁を作るといふ挑発として受けとめざるをえない。当然、韓・日、中・日関係を含む北東アジア情勢に悪影響を及ぼすことは明らかだ。

安倍総理は参拝後、報道陣に「日本のために貴重な生命を犠牲にした英霊に尊崇を

表示した。中国や韓国の人々の気持ちを傷つける気持ちは毛頭ない」と話した。日本のために生命を犠牲にした人々が、我々にとっては生命を奪って苦痛を与えた侵略者という事実を努めて無視する。『我田引水』式の歴史認識の極限状態だ。彼はまた、韓国、中国の首脳に「直接説明する機会があればありがたい」とも話した。頬をたたいておきながら、会ってその理由を説明するという次第で、人を怒らせようとする言動以外に解釈するすべがない。

安倍総理の靖国参拝がいかにも国際的支持を受けられないかは、日本の集団的自衛権を容認した十月初めの米・日安全保障協議委員会に参加するために訪日した米国のケリー国務長官とヘーゲル国防長官が取った行動からもよく分かる。彼らは当時ヤスクニでなく無名勇士の墓である千鳥ヶ淵戦没者墓苑を参拝した。ヤスクニを米国のアーリントン墓地に比喩した安倍総理に対し、恣意的解釈を止めて歴史を直視しろとのメッセージを伝えようとしたものだった。

安倍総理の参拝は直ちに北東アジアの平和に濃い暗雲を漂わせた。我が国は政府スポークスマンであるユ・ジンリョン文化体育観光部長官名の声明を通じて、「慨嘆と怒りを禁じえない」と強く批判した。発言者の役職や内容の強度からみて、韓・日首脳会談は安倍総理が反省して改善したとしても、新しい総理の登場なしには不可能に見える。中国も『歴史の正義と人類の良識に公然と挑戦する行為であり強い憤りを表す』と糾弾した。

安倍総理の靖国参拝は、北韓内部の急激な権力変動、中・日領土紛争、韓・日歴史問題などで不安定な東北アジア情勢に不安定要素の一つを加えるものだ。彼が口を開けば言う『積極的平和主義』が、実は『積極的略奪主義』であることも今回明確になった。

「改革開放」は資本主義への道

— 中国への基本視点(二) —

停滞

社会主義的国家改造は憲法制定(一九五四年)、第一次五ヶ年計画(一九五三年)時におこなわれ、先輩社会主義国ソ連と連携し社会主義国家建設の道が拓かれる。社会主義建設は国家権力の奪取とともに始まる。それは終わりではなく始まりである。

中国は遅れた資本主義国家、しかも一九世紀以来、世界の帝国主義国家の植民地状況におかされていた。こんな中国内で路線論争が起き、中ソ論争ばかりか武力衝突(一九六九年)すら引き起こされた。社会主義の経済発展への努力は、はげしい政治闘争の波に飲み込まれたことを示すのが、先に上げた年代記である。

この三〇年間、GDPは六七九億元から四五四億元へ、工業総生産は一九一億元から五一五四億元、それぞれ六・九倍、二七倍のびである。素材産業の生産は大きく伸びている。原炭〇・四億トンから六・二億トン、原油二〇万トンから一億トン、発電量四六億kwから三〇〇六億kw、粗鋼六一万トンから三七二万トン、セメントは一四一万トンから七九八万トンとある。政治的混乱が生産力発展を押しとどめたこと

は明らかだ。

改革開放

新中国の二人の立役者毛沢東、周恩来死去は一九七六年である。鄧小平が権力者となった。中国の「新しい」出発が始まった。「改革開放」である。その歩みを年代的に記す。

一九七七年 鄧小平復活、文化大革命終了宣言

一九七八年 鄧小平、改革開放路線提起。鄧小平は「市場経済は資本主義の社会だけに存在する。あるいは、資本主義にもとづいた市場経済しかないというのは正確ではない。社会主義のもとでなぜ市場経済を推進してはいけないのか」(一九七九年十一月)一九七九年七月 特区設置。外資企業による直接投資の受け皿として広東省の深圳、珠海、汕頭等

一九八四年 経済体制改革に関する決定。そこでの基本的考え方は――

①計画経済と商品経済を対立させるような伝統的な観念を打ち破り、すすんで価値の法則に従いそれを運用すべき。

②社会主義計画経済は公有制を基礎とした計画的な商品経済であることをはっきりと認識しなければならない。

③商品経済の十分な発展は、社会経済の発展における飛び越すことのできない段階であり、中国の経済の現代化を実現するための必要条件である。

一九八七年 「社会主義初級段階論」の提起。その内容は――

①中国の社会主義は半植民地半封建社会から生まれ、生産力のレベルは先進資本主義国よりずっと遅れている。

②中国は非常に長期にわたる初級段階を経て、ほかの多くの国が資本主義の条件のもとで成し遂げた工業化と生産の商品化、現代化をなしとげなければならない。

一九九一年一〇月 鄧小平「南巡講話」、社会主義市場経済への移行。その内容は、①計画と市場はどちらも経済手段である。

②社会主義の本質は生産力を解放し、発展させ、搾取と両極分化をなくし、ともに豊かになることである。

二〇〇二年十一月 社会主義市場経済体制を改善する若干の問題に関する決定。主要任務として――

①公有制を主体とし、各種の所有制経済がともに発展する基本的経済制度を整備する。

②都市と農村の二元的な経済構造を着実に変えるために有利な体制を構築する。

③競争的で秩序ある現代市場体系を建設する。

④就業や収入の分配および社会保障制度にかかわる制度を整備する。

⑤経済社会の持続可能性発展を促進する構造をつくりあげる。

現代の中国はこの延長線上にある。この間の大きな政治的出来事は胡・趙体制時代の天安門事件(一九八九年六月)。天安門事件以降、江・朱(一九九二～二〇二年)、胡・温(二〇〇二～二〇一二年)、そして今習・李体制となる。

毛沢東は社会主義制度をつくった。試行錯誤は生産力発展を妨げた。生産手段（土地・工場等）は国有化されていた。そんななかでの資本主義への復帰である。「改革開放」から三〇年、中国の状況はどうか。

腐敗

第一八回共産党大会（二〇一二年十一月）の政治報告は、「腐敗」についてこう記している。

「この問題を解決できなければ、党は致命傷を負い、ひいては党も国家も滅亡する。高級幹部は、自己の親族や側近に対しても教育や規律を強化しなければならない。権力の大小や地位の高低にかかわらず、党規約や法規を犯せば容赦なく厳罰に処さなければならない。」

大会で総書記・国家主席に選出された習近平氏は十一月十五日、「党内には解決すべき問題が多々ある」。「一部の幹部の腐敗、人々からの乖離、形式主義、官僚主義は大きな力で解決しなければならない」とも述べた。「腐敗」の具体的内容はどうか。全人代（全国人民全国代表者会議、二〇一三年三月）はおおよそ五点を指摘する。

- 1、発展の不均衡・不調和・持続可能という問題がいぜん際だっている。
- 2、科学的発展を妨げる体制上・仕組み上の障害が多く、腐敗が多発している分野がある。
- 3、資源節約・環境保全という基本国策を維持する。大気・水・土壌などの汚染問題を解決する。
- 4、民生の補償と改善を優先位置にする。企業定年退職者の養老年金を一〇%引き上げる。食品と医療の安全に対する監督・管理体制を改革し、充実させる。
- 5、所得分配の格差を縮小し、発展の恩恵がより公平に行き渡るようにする。
- 6、法や世論による監督を堅持し、権力運用に対する規律・監督システムを健全化する。腐敗に反対する。

成長の秘密

中国は一九四九年建国、毛沢東は生産手段を国有化、その過程は一九五六年完成した。計画経済による工業化政策が進められた。しかし、社会主義国家建設は権力闘争の一環として大躍進、文化大革命、権力闘争のなか成果は少なかった。それは一九五〇年のGDPが六七九億元、三〇年後の一九八〇年は四五四六億元。三〇年でGDPは七倍弱だった。中国が社会主義から資本主義への舵を切ったのは一九七八年「改革開放」である。

改革開放後の経済成長はものすごい。一九八〇年にくらべれば二〇〇〇年に二二倍、二〇一一年には一〇二倍。世界GDP比の一〇・五%を占める。こんな成長の秘密はなんであったのか。権力政党共産党が共産党を維持したまま開放改革路線を外資を導入することでヒタ走ったことによる。

遅れて発展した資本主義国がすでにある技術力を安価に導入することで、ヨリ速い経済成長が可能とするのは世界の歴史が示す。イギリスが一六世紀から二世紀以上

かけてつくりあげた資本主義という体制は日本では明治維新から日清・日露の戦争通じわずか三〇年でつくられた。とはいっても当時の先進国英・仏・独・米国とくらべればささやかなものであったが、中国はたった三〇年でGDP世界第二位になった。この秘密は何か。

(つづく)

地域から地方から中央を包囲する力をつくる

国鉄解体を仕掛けた中曽根は、「国労をつぶせば、総評がつぶれる」「お座敷をきれいにして、新しい憲法を祀る」と言った。総評解散・連合発足から二〇余年、護憲の軸の役割を果たした社会党はなく、一二年衆院選、一三年参院選は自民党の圧勝と改憲派の台頭を許し、戦後レジウムからの脱却をうたう安倍流が吹き荒れている。

「戦争できる新しい憲法」制定の危機を迎えている。しかし、特定秘密保護法を巡る攻防は、戦後民主主義が社会に、地域に息づいていることを明らかにした。私たちに問われているのは、このような闘いを護憲の共同戦線にどう結実させるかである。国政選挙は予定されず、安倍政権はこれ幸いとばかりに国会多数を背景に「壊憲」を先行させてくるだろう。

地域から、地方から中央を包囲する力を作り出そう。一五年春は統一自治体選である。「人らしく生きる権利」を貫くためには、知恵と力を出し合い、お互いが支え、一緒に闘うしかない。自治体選挙は、国政をにらむ地域からの共同戦線作りなのだ。共に頑張ろう。

(松枝 佳宏)

どこへ行くのか日本 これが良いのか日本

最近、仕事柄の性なのか、表題のテーマが頭から離れない。第二次安倍政権の発足から一年。昨年暮れには「特定秘密保護法」が広範な国民の声を無視して強行され、集団的自衛権の行使容認を視野に入れた「国家安全保障戦略」が閣議決定された。

年末には安倍首相は「靖国参拝」を強行し、中韓はもとより米欧からも激しい批判が続出した。3・11の福島原発事故を経験しながら、原発輸出と再稼働に前のめり。沖縄問題は札幌で基地受け入れを迫り、沖縄県民を再び苦悩に追い込んでいる。

庶民には消費税増税、大企業には減税で優遇。「世界で一番活動ししやすい国」をめざすとして、労働法制の改悪と社会保障改悪を国民に押し付ける。安倍首相の唱える「積極的平和主義」とは結局は「格差と貧困、戦争のできる国づくり」にほかならない。

誰もが安心して働き、生き続けられる社会、若者が夢と希望を持てる社会へ。社会を変えるのは「だれか」ではなく「私たち」。小さな声を、大きな声に。「馬」力を出して頑張りましょう。共同闘争をどうつくるか、つながりを求めて今年も努力します。

(鳩川 静)

民主主義を守り、安倍政権の暴走に歯止めをかける広範な運動の構築を！

第二次安倍政権は、その本質をむき出しにして、日本版NSCの設置や特定秘密保護法の強行成立をはじめ、共謀罪制定や通信傍受法（盗聴法）の改定策動に着手するなど集団的自衛権の行使を見据え、実質改憲へ突き進もうとしています。

そして、大企業優遇・生活破壊の税制改正大綱や労働規制緩和による大企業優先のアベノミクスは、勤労国民を苦しめるだけで、破綻しかねない経済政策としか言えません。

さらに、東日本大震災からの復興は被災者を置き去りにした土建復興の様相を呈しており、福島第一原発事故はなかったかのように原発再稼働、原発の積極的活用へと動き始めています。

今まさに、国民、県民が主権の政治が蔑ろにされ、民主主義の土台が崩されようとしている中で、本来なら日本社会は免疫機能を発揮し、反撃に転じるときなのです。

このような安倍政権の暴走に歯止めをかけ、民主主義を守り抜き、南海トラフ地震への備えをはじめ、雇用確保や生きづらさを感じている人々への支援に引き続き取り組んでいく所存です。

一〇一四年は、私も年男、還暦という節目の年となります。変わらぬご指導とご提言を賜り、それらを糧に、精進することで、来春には良い結果を出せるよう頑張ります。世の間違っているから人生は生きるに値する」、そんな詩の一節に励まされながら頑張っています。

(坂本 茂雄)

情勢 四つの特徴

一年のはじめに考える――

資本と思想攻撃

資本は価値増殖、賃金労働者の血を求めてやまない「吸血鬼」である。この吸血鬼は、労働者が自分で考える能力・習慣をなくせばなくすほど活気づく。技術の「革命」は日進月歩、世界市場の急膨張は、独占資本間の世界的な競争を激しくし、労働組合を生産性向上運動の嵐に巻き込んでいく。この先頭に立つのが今では厚生労働省、そのスローガンは「労使コミュニケーションは経営資源」である。ある労働専門誌は、JAM（連合傘下の金属労組）組織・教育全国オルグがどのように「組合役員教育」をおこなっているかをのせる。彼は大企業の経営者の著作、講演にある「組合の役割」のくだりを紹介、講義に入るといふのだ。

「私が所属するJAMは単組に対し、活動の重要な柱の一つとして『企業経営についてのチェックと会社に対する労働組合としての提言活動の強化』を提起している。私はその方針を徹底するために、研修会に際し、『小倉昌男（ヤマト運輸元会長）経営学』（日経BP社）の『第二章 労働組合を経営に生かす』のなか『組合の役割』のくだりを紹介し、講義に入ることになっている。」

ここまで言うか、が次のくだりだ。

「全国労組生産性会議のシンポジウム（〇二年七月）の記念講演で、トヨタ自動車の奥田碩会長（当時）は小倉さんの言葉を引用し、『職場の実態を一番よく知っている組合員の声を集約して、労組が牽制（けんせい）機能を果たすことは経営者サイドとしても大いに期待している』と企業別労組と連合にエールを送った。これも講義の冒頭で紹介した。」

ここまでくれば労組は経営の一部門というほかない。これが連合労働運動、基幹産業労働組合の実態だ。若者労働者は過去を知らない、老練な活動家は現在を悲観する。

「四〇年間やってきたが日本の労働者の運動がどん底まで来た。賃金は下がりがっぱなし。最近では相談を受けても年収三百万円と聞くと、『まだいい方やん』とつい思ってしまう。これは深刻な状況。正社員の組合が闘いをすることは今望めない。非正規との連帯のなかで労働運動を復活させる以外に道は開けない。」

この老練な活動家は「非正規との連帯」を労働運動への復活への突破口としたいと夢を語る。現実が永久に現実であり続けることはない。現実はやがて否定され、新たな現実が生まれ来る！ その予兆を示唆するのが現情勢の特徴である。情勢の特徴は大きく四つである。第一は資本主義への批判の高まり、第二は「かれん誅求時代」の到来、第三は政治の右傾化・反動化、第四は階級対立の顕在化である。

資本主義への批判の高まり

資本主義的生産様式では、富の生産はその社会成員の必要を直接の目標として行われているのではない。資本家の直接の目的は剰余価値の獲得、あるいはますます増大

する剰余価値の獲得を目的として行われる。この「貨殖」のために資本家は競争する。批判の背景にあるのは――

第一に、労働者生活の不安定性の高まりである。それは下がり続ける賃金労働条件、要員不足、派遣労働に典型的な不安定雇用労働者の増加に示される。

第二に、失業者、とりわけ若者失業の増加である。生産力向上は資本の有機的組成の高度化、ME・ITの技術革命は自動化・ロボット化となり機械が人を食らう。複雑労働は単純労働化され、資本は若者、労働者を「使い捨て」の部品とする。生産設備はでかくなる。しかし可変資本（労働力）の需要は小さくなる。産業予備軍である。

第三に、職場の荒廃だ。その一番の要因は職場に人が足りないこと。多くの労働組合は「定員増」に資本は交渉に応じてくれないと、手をつけようとしなない。組合員は労組を信頼せず労組は組合員の声に耳を傾けることが少なくなる。

その結果が、個別的労使紛争の激増、人材育成力の衰退、中間管理職の役割変化となり、職場に精神疾患を蔓延させる。

「かれん誅求」の時代到来

苛斂誅求時代の到来である。広辞苑は「税金などをむごく厳しく取り立てること」と説く。資本主義という生産体制は、現代にあつて全社会を敵対する二大陣営、互いに直接に対立する二大階級へと単純化した。

総人口一億二六〇〇万人、構成は労働力人口六五〇〇万人、六五歳超の高齢者三二〇〇万人、就業者六三〇〇万人、失業者二五〇万人超である。就業者の階級構成は雇者（労働者）五五〇〇万人、自営業者（小零細企業主、農漁民）五四七万人、その家族従業者一六三万人、大企業経営者（重役）四万人、中小企業（資本金一億円超）四二万社であるから、労働者階級とその家族は優に九〇％を超える。独占資本家階級は六三〇〇万分の四万、〇・〇六％にすぎぬ。

国債は、年々の利子その他の支払いを支弁する国家収入を支柱とする。国債制度は近代租税制度の必然的補足物となった。国債によって、政府は、ただちに納税者に響くことなく、臨時費を支出することを可能とされる。国債は結果として増税を必要とする。

自民党政府は田中内閣以来、経済成長を名目に「建設国債」という国債を発行し続けた。国債発行額は、今では国民総生産（GDP）の約二倍。一〇〇〇兆円にもふくらんだ。加重課税は偶発事ではなく法則となった。税制は直接の税から間接の税が中心となった。消費税である。国債制度は、こうして賃金労働者を従順、節約、勤勉にし、その上に過度の労働に堪えさせるための最良の制度となる。

二〇一四年四月から、消費税が三％値上げされる。一五年一〇月にはさらに二％上がり、一〇％となる。労働者等への社会的搾取の強化である。輸出で潤う独占企業には還付される。社会保障の全面切り下げと保険料ばかりか利用料の増加である。医療・介護・福祉の全分野に及ぶ。そして生活保護費の切り捨て、切り下げだ。

定年退職者の生命の綱「年金」も同じ傾向だ。支給年齢は切り上げられ、給付額は「デフレ」を口実に切り下がる。住民税、所得税は上がることはあれ、下がる傾向に

はまったくない。農民にはTPP推進で減反・補助金制度廃止が重くのしかかる。

大企業には減税・徳政令である。財界は六重苦―法人税減税、円高是正、自由貿易、原発稼働、雇用、環境―解消を安倍に求めた。安倍の回答が「三本の矢」、資本に儲けさせるための経済政策である。資本優先は震災特別法人税を一年前倒し廃止したことにもっともよく現れる。原発再稼働、東電への国を上げての支援、特損で借金チャラに、そして税金投入である。他方での被災者「棄民化」だ。

政治の右傾化・反動政治

総保守勢力積年―日本国憲法公布と施行からの願望は、平和勢力の砦としてあった社会党・総評ブロックを壊し、小選挙区制導入で「二大保守政治体制」をつくることにあった。一九九〇年はじめ、この条件がつけられた。旧い保守・自民党、新しい保守・民自党である。民自は総保守勢力の政・財・官・労・学・マスコミがつくった。政権党となった。しかし、黨員の世界観はバラバラ、一貫した政治に欠けた。消費税、原発エネルギー、安全保障の問題で、自民党と同じ主張を展開した。

民自は国政選挙で大敗北、自民党政権へと道を開いた。安倍の支持率がなぜ高いか、自民にとって代わる政党がない。民自はじめ保守の諸党は自民亜流の党。こんな中で政治の右傾化・反動政治の急進展である。

自民の党是は憲法改悪、中心は9条と前文、他はつけ足しにすぎない。こんな党に国民は自民に大きな「権力」を与えた。国会は改悪勢力＝自民＋維新＋みんな＋(公明)＋(民主)、その議席数は衆三六四八七、参一四一七七八となる。

総保守勢力は現情勢をどう認識しているか。基本は三つである。①社会主義はなくなり、左右の概念は消えた、②憲法改悪の「宿願」実行の時、③二〇一五年は結党六〇周年。憲法改悪にひた走る背景だ。しかし、憲法改悪勢力にも進め方、憲法の構想をめぐり内部に対立が拡大している。

安倍は、二〇一五年は自民党結党六〇周年、この時までにと憲法改悪に突進する。改憲への手法はこうだ。第一に「積極的平和主義」という「戦争主義」の法案を国会へ提出した。それは①国家安全保障会議(日本版NSC)設置法、②特定秘密保護法、③日本船舶警備特別措置法、④自衛隊法改正法等、さらには憲法九六条改正と国民投票法改正を次期国会で画策する。

第二にその先の狙いは、①武器輸出3原則のみなおし、②集団自衛権の行使へ憲法解釈みなおし、③領域保全、海上安全を当面の目標とし、憲法9条、前文の「空文化」を進めたい。そして①九六条改悪 国会での提出条件、国民投票の条件、②改憲へ9条に防衛軍、天皇「元首化」もである。

国際情勢の変化は激しい。アメリカは相対的に弱くなり、中国が力を増している。焦点は北東アジアの安全保障、対「中国・北朝鮮」包囲網づくりとなる。そこでの自民の方針は日米安保条約の一体化、「不沈空母」沖縄と本土での軍事基地再編成となる。

反動化で矛盾も顕在化し始める。①米国は中国、朝鮮半島を刺激するな―解釈改憲にとどめるべきと日本を牽制する。②中国、韓国は歴史認識(靖国、教科書、慰安婦)、

領土は「核心的利益」と日本批判を強める。③保守陣営（国内）では「原理派Ⅱ国家主義者」と「現実派Ⅱ国民民主権主義者」のせめぎ合いが強くなる。

階級対立の顕在化

以上三つの情勢の特徴は、資本と労働は対立している、国家は資本の味方と言うことだ。こうして、どの階級が労働者・勤労者に君臨しているか、国家はどの階級の手にあるかが、だれにも見える時代に入った。はやりの1%対99%の対立、矛盾がこれである。

◇ 読者からのおたより ◇

ミツバチたちがやってきた カボス園專業一〇年に、新一年生が加わり、二人羽織で仲良くけんかしています。ご褒美か園から数メートル足らずの所に日本ミツバチたちがやってきました。カボスの害虫である「ハナムグリ」の被害が少なくなり、なんと秋の収穫後には「百花蜜をいただくことができました。小さな虫に敗けないよう今年も励みたいところです。本年も皆様にとつてハッピーな年でありますように。滝野文庫も楽しんで頂いています。『サルからヒトへの物語』河合雅雄、『アマゾン川紀行』森下郁子、その他で、一人旅をしています。』（大分・佐藤 憲一）

編集部より 「滝野文庫」役に立っているんだ。嬉しいですね。
練って 練り直して 六十歳を機に職を辞し、十八年の単身生活を終わらせて、四月十日、家族のいる福井に転居。一からの福井で、とにかく福井を知り、地域に馴染もうとしていきます。

一片の鉄を打ち叩いて 馬蹄をつくと一千元に／＼しかし、その鉄をさらに練って 質の良い鉄にする、針に変身／＼それを全部売ると三万円／＼しかし、その鉄をさらに練って カミソリにするとなんと二〇万円に／＼さらにさらにそれを練って練って ゼンマイにすれば、二一〇万円の価値がでる／＼新たな一步は 不安定で こころもとないが 多くの人たちに支えられ 新たな息吹を感じる今 私に何を積み上げられるか 練って 練り直して： まだ 道は長い （福井・黒崎 隆雄）

編集部より 新たな門出に乾杯です。練って 練り直して：肝に銘じたい。

地域9条の会で刺激 地域で9条の会に入り刺激を受けています。友人が誘ってくれ一二月六日夜のデモに参加。護憲活動の年月が音もなく壊される怒りのまま元旦を迎えます。自民党が社会科教科書を徹底的にマークし教科書検定なるもので虚偽の歴史教育（愚民化）を行った背景を釣魚島トランプを通して痛感です。インターネットで浜矩子氏、植草一秀氏などの著書を拾い集めています。タイムリーな、そして必要な書籍の紹介をして頂けると嬉しいと思います。（千葉・柳田祥子）

編集部より 私は大内兵衛、向坂逸郎の本をひっぱり出しています。
労働者の学習資料 長きにわたり労働者の学習資料として発行され、大変御苦勞様です。この度の購読料値下げは、低賃金者にはたすかりますが取材・原稿料など運営に影響しないのか心配です。何も出来ませんが、購読者拡大に努めます。四月からの二人分のアドレスです。（網走市・S）

励まされ 誌の発刊たいへんご苦勞さまで。発刊当時から購読しておりますが、たいへん励まされております。四月からはメール送信で購読を続けます。（佐賀・Y）

楽しみ・愛読 毎号楽しみです。発行形態は変わっても、愛読させていただきます。（鎌倉・I）

編集部より 「誌代半分になって、やっていけるの」の声も。みなさんのご支援ご協力で大丈夫。反動化そして国鉄「分割」 安倍自公政権は憲法改悪までやるのでしょうか。事態は国鉄闘争の敗北の結果が招いたものと痛感しつつも、JR東日本の水泥棒事件での株主代表訴訟のたまたかいやJR北海道問題もあり国民に交通権の回復や、JRに横滑りした国鉄管理者らの組織的な差別と虐めを断罪する取り組みが広がらないわけにはいかないと思います。（東京・S）

惨状 戻りたかったJR北海道の惨状が明るみに出てしまいました。私たちが一番危惧していたことが現実になったことは実に残念です。（北海道紋別・S）

編集部より 国鉄「分割」は諸悪の根源。このことをもつと拡めなくては。

年金先延ばし 一年、年金は延ばされたので、あと二〜三年は、どこかで働きます。（山形・T）

会話 通信・新たな出発に期待、WEB上での会話できればいいですね。（帯広・K）